

# 指導資料

鹿児島県総合教育センター

## 道徳第28号

- 小, 中学校対象 -

平成16年10月発行

### 道徳教育における児童生徒理解と評価

道徳教育は、「生きる力」の柱の一つである「豊かな人間性」の重要な部分を占める道徳性の育成を目指すものである。道徳性とは道徳的行為を具現化する人格的特性であり、人格形成の基盤をなすものである。児童生徒の道徳性については、教師と児童生徒の温かな人格的な触れ合いやカウンセリング・マインドに基づく相互のかかわりの中で、共感的に理解されるべきものである。そして、その評価は常に日々の指導に生かされ、児童生徒の成長につながるものでなければならない。

そこで、本稿では児童生徒の道徳性を培うために、適切な児童生徒理解と道徳性の評価の在り方について述べる。

#### 1 道徳教育における評価の基本的態度

児童生徒の道徳性については、道徳教育の目標や内容に照らして、どの程度身に付き、成長したのかということをはっきりとすることが大切である。そのためには、指導前や指導後の児童生徒の実態や変容の把握に努め、確かな児童生徒理解に基づく評価を心掛ける必要がある。

そのために、教師は児童生徒の道徳性について実態を客観的に把握することができ

るような資料に基づいて、道徳性を判断し、評価する必要がある。また、常に児童生徒のありのままを受容し、それを尊重する共感的な理解を心掛けるとともに、児童生徒の道徳的な成長の姿を温かく見守り、そのよさを認め、励まし続けていく教師の姿勢が大切である。

あくまでも、児童生徒の道徳性の評価は、児童生徒自身が自らの人間としての生き方について自覚を深め、人間としてよりよく成長していくことを支えるために取り組むものである。

#### 2 評価の観点と方法

児童生徒の道徳性は人格の形成全体にかかわるものであり、いくつかの要素に区分できるものではない。しかし、その評価に当たっては道徳的心情や道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度及び道徳的習慣などを観点として分析することが多い。

##### (1) 評価の観点としてとらえる道徳性

ア 道徳的心情...望ましい考え方やよりよい生き方について、どのような感情をもっているのか。

イ 道徳的判断力...善悪の判断を下す場

面で、どのように思考し、判断するのか。

ウ 道徳的実践意欲と態度...よりよく生きようとする意志や態度が、どれだけ育っているのか。

エ 道徳的習慣...基本的な生活習慣をどの程度身に付け、実践することができるのか。

## (2) 共感的理解とその評価方法

教師にとって大切なことは、児童生徒一人一人がよりよく生きる力を身に付けることができるという信念と、児童生徒の成長を信じ、願う姿勢をもつことである。その中で、児童生徒は一層よりよい生き方を求める意欲を高めていくことができる。また、教師自らが心を開き、児童生徒と心が触れ合えるようにしようとするのが大切である。

そこで、教師が児童生徒を共感的に理解していくためのポイントを、次に示す。

児童生徒とかわりながら観察することを心掛ける。

学校生活の中で、児童生徒との触れ合いを楽しみ、温かな心の交流を図りながら、児童生徒の気持ちを理解するように努めることが大切である。

児童生徒の心の成長の経緯を大切に

する。  
児童生徒は、様々な状況の中で生活している。教師は個々の事情等も含め、児童生徒のありのままの姿を受け止める姿勢が大切である。

教師自身の感性を高める。

日ごろから、教師自身が積極的に多様な体験に接しようとするのを心掛けるとともに、柔らかな心もち続けられるよう、感性を豊かにする努力も大切である。

また、児童生徒を共感的に理解するための方法として次のような評価が考えられる。これらの評価に当たっては、複数の評価方法を用いるなどして、児童生徒を多面的に理解することが大切である。

### ア 観察による方法

児童生徒のありのままを観察し、記録する方法である。観察で得られた資料から、外に現れた行動や態度の背景にある児童生徒の気持ちを理解することが大切である。

### イ 面接による方法

直接、児童生徒と相対して話し合うことで、道徳的な感じ方や考え方などを評価しようとする方法である。児童生徒との人間関係が深まれば、話すことの内容や話し方、また、表情からも道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲や態度などの内面がかなり理解できるようになる。

### ウ 質問紙等による方法

児童生徒が自分の道徳性について、どのように認識しているのかということを知る上で有効であるのみならず、児童生徒が自己理解を深めることにも役立つ。また、指導の前後に行えば、児童生徒の変容を知ることでもでき、指導法改善のデータにもなる。

### エ 作文や日記、ノート、ワークシートなどによる方法

作文や日記、道徳ノートなどは、児童生徒が日ごろ感じ考えていることを直接知ることができる貴重な資料である。しかし、書かれている内容から直

ちに道徳的な評価を下すのではなく、行間に込められた思いを共感的に理解する姿勢が大切である。

### 3 評価の実際

道徳性をはぐくむ中心となるのが、道徳の時間である。ここでは、児童生徒の道徳性についてとらえた実態を授業展開に生かすことで、その変容を見極めるとともに、児童生徒が自分自身の道徳性の高まりを自覚できるようにするための具体的な評価の在り方について述べる。

#### (1) 事前の段階評価

道徳の時間の指導を構想するに当たっては、前述した質問紙や日記などから事前に児童生徒の実態をとらえておくことが大切である。

《事前に実態をとらえるための観点例》	
ア	授業でねらいとする内容項目と同じものについて、前の道徳の時間の授業ではどのようにとらえていたのか。
イ	主題にかかわって、どのような体験があったか。 ・ 各教科等や学校生活でとらえた様子 ・ 家庭や地域の中でとらえた様子
ウ	児童生徒自身が主題にかかわり、どのように感じ、どのように考えているのか。

#### (2) 道徳の時間の評価

授業の中で児童生徒が自己の変容をとらえ、自分に生かすためには、教師が児童生徒の様子を適切に把握する必要がある。次に示すのは、児童生徒の心の動きや学習の深まりをとらえるため、学習指導案の中に「評価の視点」を位置付けた例である。

1	主題名	協力する仲間（対象：中学2年生）
2	資料名	「ステンドグラスの輝き」 中学校道徳資料「ふるさとの心」
3	ねらい	自己が所属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める。
4	展開例（一部）	
	学習活動（発問）	評価の視点〔方法〕
1	ステンドグラスの製作実行委員になったとき、私ははじめどんな気持ちだったのだろうか。	自分が、気乗りしない係になった時の主人公の気持ちをとらえることができる。 〔表情、発言など〕
2	学級の中で活動しない人たちを、実行委員の人たちはどんな気持ちで見ていたのだろうか。	黙々と活動していた実行委員の人たちのそれぞれの思いをとらえることができる。 〔表情、発言など〕
3	集団生活において、その集団が向上していくためには、どんな心構えが大切だろうか。	お互いの立場を理解し、協力し合うことが大切であることを心から感じることができる。 〔表情、ノートなど〕

学習の過程で児童生徒の心の動きや学習の深まりをとらえることは、難しいことではあるが、評価の視点を明確にしておくことでより適切な観察ができる。そして、一人一人に応じたKRや指導を行うことで、児童生徒はさらに自らを振り返り学習意欲を増すことができる。

#### (3) 事後の段階での評価

道徳の時間によって、すぐに児童生徒の行為が大きく変化する例はそれほど多くない。ただ、道徳の時間における学習が、心の成長のどのようなきっかけとなっているのかを的確に見届け、日常の指導に生かすことができるように配慮する

ことが大切である。

そのために、様々な教育活動における児童生徒の課題意識や実践意欲の広がりなどを把握し、それを道徳の時間における意識と意図的に関連させることも効果的である。

次に紹介する実践例は、児童生徒の道徳性の高まりを、教育活動全体で評価するための

工夫に取り組んだものである。これは各学期の教育活動を見通し、道徳の時間の学習を核として、関連のある活動を契機に児童生徒が自らの心を見つめ、書き留めていく記録である。児童生徒による自己評価として有効であるとともに、家庭との連携を強める方法としても活用することができる。

『心の成長記録』	
《記入内容》	2学期テーマ 心のめあて よりよく生きようとする自分を高めよう。 ア 友達を傷つけないようにする。
ア 生活の中で、自分やみんながよりよく過ごすための自分の目標を書く。	道徳の時間 みんな でいっ しょに イ 2学期が始まり、久しぶりに友達と会えてうれしかった。 イ ドッジボールが楽しかったが、少しづつ減った。
イ 自分のいいところに気付いた時や気を付けておけば良かったと感じた時に記録する。	本当の 勇氣 ウ〔水泳大会〕 代表であいさつした。はずかしかつたけれど、うまくできた。 エ 【9月を見つめて】 9月はうれしいことがたくさんあった。特に水泳大会ではいっしょうけんめいがんばったと思う。
ウ 学校行事等の感想を記録する。	障害を のりこ えて イ 運動会練習は疲れたけれど、自分なりにしっかりできた。
エ その月を振り返り、自分のがんばり状況を記録する。	2学期の心の成長 記録を見つめて 保護者から 担任から
	留意点...ア 週1回朝の会で「心の時間」を設定し、自分を見つめさせる。 イ 道徳の時間の学習や一人一人の生活課題を中心に記入させる。 ウ 月末や学期末に振り返りの時間を設定し、「心の成長記録」における自分自身の気付きや改善策を考えさせる。

(阿久根市立阿久根小学校 西木場昭一教諭の実践を基に作成)

#### 4 まとめ

道徳性の評価については、児童生徒の内面に深く迫るものだけに、共感的理解を基盤とし、広い視野から継続的・総合的に理解し評価することが大切である。

それだけに、教師は常に適切な児童生徒理解に努めなければならない。道徳の時間での観察はもとより、すべての教育活動において温かく、冷静な児童生徒理解の力を身に付けることが求められる。担任自身が人間理解の力を高める努力とともに、常に

複数の教師で児童生徒を見守ることも重要である。さらに、道徳の時間の指導に当たっても、校長や教頭の参加、他の教職員との協力的な指導などについて工夫し、全校での指導体制を充実していくことが求められる。

#### 【参考文献】

文部科学省 道徳教育推進指導資料『心に響き、共に未来を拓く道徳教育の展開』  
鹿児島県教育委員会 中学校道徳資料「ふるさとの心」

(教科教育研修課)